

花田っ子きらきら通信

姫路市立花田小学校
文責 校長 内海 行之

もう一つの「力の限り 跳ぶのが美(うる)わし」

3月8日(水)の中間体育の時間に「校内長なわ大会」を行いました。どの学級もこれまでの練習の成果を出して新記録を樹立しようと5分間必死に頑張っていました。

終わった後、歓声のわいた学級が複数ありましたが、「あそこは学級の新記録がでた学級だな。」とすぐに分かりました。

「大なわをみんなとがんばって」という題で作文を書いた学級があったので紹介します。

○ぼくは、一年のときに何回かはしらなかつたけれども、たぶん一年のときよりかこえていると思います。二一九回。らいねんは三〇〇回いきたいと思います。つぎのらいねんは五〇〇回いきたいと思います。

ぼくは、なわとびが大好きです。大なわが大好きです。

○ぼくは、大なわのターナーをしていました。れんしゅうの時にターナーでまわしていたら、だんだん足とうでがしびれるようになって、大へんでした。けど、みんながいっしょけんめいとんでくれたから、ぼくもがんばろうと思いました。みんなのおかげでぼくは、みんなからゆきをもらいました。

来年もターナーになれたら、大なわがにがてな子を上手にしてあげたいです。

※ターナーは回し手

1年生の時の記録は覚えていないけれど、今回の記録は覚えているというところ。また、来年、再来年と次の目標を定めているところ。さらに、個人技の縄とびのみならず、集団で取り組む長縄も大好きになったところにも、この子の成長を感じずにはいられません。いい振り返りです。

2つ目の作文の回し役を務めたこの子は、「みんなが一生懸命に跳んでくれたから、ぼくも頑張ろう」という勇気もらったと振り返っています。集団技ならではの貴重な体験をしたと思います。最後の一文からは、「跳び手も大切だけれど回し手も大切なんだぞ。回し方次第で跳び手を成長させることもできるんだぞ。」という、この子の健全なる自尊心を感じずにはいられません。



花田中の卒業式に臨席して

10日午前10時より花田中学校において第70回の卒業証書授与式が厳粛かつ愛情いっぱいに行われました。今年の卒業生は、私が教頭で赴任した年の6年生であったため、昨年の卒業式とは異なる思いが込み上げてきました。あの時のあの子がこんなにも立派になってと、子どもたちの無限の可能性に感嘆せずにはいられませんでした。

終始、涙する生徒達と先生達の姿に、信頼に満ちた3年間を垣間見た気がします。力を合わせていろいろな苦難を乗り越えてこられたからこそその涙だったに違いありません。

今度は花田小の番です。23日には保護者の方、地域の方、そして私ども教職員に見守られながら立派に巣立ちゆく6年生の姿をお目にかけてたいと思います。